

福マネット

<発行日>
令和4年5月1日

第24号

「福マネット」とは「福島のカーマネジャーのネットワークを深めていこう!」という思いが込められています。

巻頭言

新年度を迎えて

会長
菊地 健治



新年度を迎え、会員の皆様には今年度も協会事業にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染が始まり、2年が経ちました。コロナ禍での新しい生活様式が定着し、マスク、手指消毒が当然のように暮らしの一部になっています。

このようなコロナ禍で私たちケアマネジャーは、対面に手の援助が基本で活動をしています。互いにマスクで表情がわからない、距離をとって話をする（以前よりも大声になる）そして訪問時間を短くするといった対応をしながら活動をしています。

人と人とのつながりを大切にしている活動が十分に行えないなかでも利用者の生活を守るために頑張っている姿は素晴らしいと思っております。

皆様がケアマネジャーとして十分な活動を継続していただけるよう、当協会として、資質向上と資格担保を安心できる環境の下でしていただけるように法定研修の完全オンライン化にての開催をすることとなりました。

主催者側も受講者側もオンラインという形

での研修は新しい環境となりますので、スムーズな運営を目指しています。

新しい取り組みですので、協会役員が一丸となってとりくみますので、会員の皆様にもご理解をいただきご協力を得られればと思っています。

また、協会として会員の皆様に寄り添った存在となりうるように努めてまいります。会員の皆様が、このように寄り添ってほしいなどの要望がありましたら、忌憚ないご意見を各地域にいます当協会理事を通してご意見をいただきたいと思っております。このことがより良い協会運営に繋がりますのでよろしくお願いいたします。

最後に、今年度も会員の皆様の声を頂戴して運営していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

※ HPをリニューアルしましたので、ご覧ください。



目次

巻頭言.....	1
福マネットリレー “結”	2
東日本大震災からの10年を節目として本を出版!!...	2
コロナ禍でのケアマネジメントの工夫.....	3
災害対策グループ「水害支援について」のアンケート集計結果...	3
お知らせ.....	4

ハイライト

- ◆菊地会長から皆様へ
- ◆郡山市の“結”
- ◆東日本大震災から10年目、本を出版
- ◆令和4年度完全オンラインでの法定研修

福マネット リレー



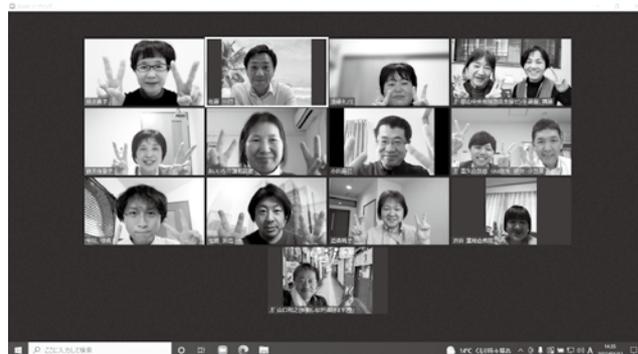
郡山市介護支援専門員連絡協議会

近森 純子

郡山市は、居宅介護支援事業所連絡協議会と地域包括支援センター連絡協議会があり、現在ブロックごとの地域ケア会議をはじめ、ケース検討会などの開催、行政からの最新情報に沿った勉強会などを行い、事業所間の連携を図っています。

当協議会は介護支援専門員個人を会員として、基礎的な知識や会員同士が交流できる機会となるような研修を企画、開催しています。会員は現在164名おり、有資格者を対象とするので、居宅や包括のCMだけではなく、入居・通所施設のCMや訪問系事業所のCM、現任ではない方など様々です。研修は定期的には開催していましたが、ここ2年近くはコロナの影響で企画すらままならない状況になってしまいました。しかし、今年度から法定研修が完全オンライン化されるとのことで、PC操作に自信のない会員もいるのではないかと考え、リモートでの研修会ができるようにしました。PCの

使い方を学びつつ、会員の皆様の仕事のヒントになるような、スキルアップにつながるような内容を検討していく予定です。新規会員の方からは「対人援助技術やアセスメントの技法など、基本的知識を学ぶ場を作ってほしい」との話があり、こうした会員の要望を聞きながら、意義ある研修や交流の場の提供、新しい情報の発信などしていきたいと思っております。



東日本大震災からの10年を節目として本を出版!!

書籍編集委員会 委員長 吉田 光子

令和3年度は、震災から10年ということで、当協会としても何らかの記録を残していきたいと考え、書籍編集委員会を理事会の中に立ち上げました。まずは内容をどうしていくかを検討し、福島県独自の対応であった相談支援専門職チームの活動の紹介、会員から震災直後からそれ以降のケアマネジャーとしての支援の事例と、ケアマネ自身が感じたこと、経験したことをまとめることとしました。

準備を進める中で、過去を振り返るだけではなく、今後につながるものにしていきたいということで、日本介護支援専門員協会常任理事より「災害とBCP」を執筆いただきました。そこであらためて、全体の構成を見直し、県外の方に向けて福島県を理解してもらうための文章を追加することとし、さらに八木亜希子先生（元県立医大特任准教授）と編集委員たちの体験を語り合ったものを載せて、『災害時の介護支援専門の役割～あの日からの私たち、福島で起きたこと～』が出来上が

りました。

事例を寄せていただいた会員の皆様はじめ、傷ついたことも含めて体験を振り返ってくださった会員の皆様、また中央法規出版仙台営業所の方など、多くの方の力を借りてここまでまとめることができました。全体の体裁をそろえる関係から、せっかくお寄せいただいた原稿を泣く泣く削らせていただくことになったり、個人が特定されそうで載せることの難しかった事情などがあり、原稿の段階の事例の力はいささか小さくなってしまったかもしれません。

5月末までには出来上がります。会員の皆様、ぜひお手元において、改めてあの時を振り返る手掛かりとなさってください。夢中で過ごしたあのときからを思いおこしてください。また水害をはじめ、多くの災害が身近に起こっている今こそ、この本をこれからの実践の参考にしていただきたく思っています。

コロナ禍でのケアマネジメントの工夫について

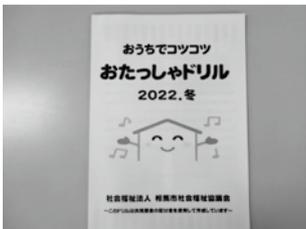
相馬方部介護支援専門員連絡協議会

コロナ禍の中でのケアマネジメント業務の工夫としては、高齢者も含めやはり家の中での生活が増え、認知症状が出てきた高齢者の増加があった。市の防災メールでの徘徊した高齢者の情報など多く目にし、搜索の協力の要請も増えた。

このような日常になり我々も家族も承知の上で、家の中での生活を考えるアセスメントが増えた。今までは「外出等を行い他者との交流」を求められることが多かった。しかし、家族も高齢者も外出することが少なくなり、住宅改修や介護用品の利用をしての室内での運動や転倒予防を行える支援が増え、我々のアセスメントに関する考え方も変わった。

また、家での時間が増え、脳トレ的なものも高齢者に行ってもらいたいと考えていた所「相馬市社会福祉協議会」で高齢者向けのドリル「おうちでコツコツ おたっしやドリル」というものを作成していた。内容は自宅で出来る簡単な運動を写真で紹介、計算ドリルや正しい文字の組み合わせ、ことわざの虫食い問題、クロスワード、生活や健康の〇×クイズ等簡単でもあり、ちょっと考えなければならぬドリルである。それを利用者や関係者に配り家でも楽しんでもらえるようなことも行った。

なお、短時間での担当者会議や時間差での担当者会議なども個々に工夫し、短時間でも話をまとめられるスキルも上がったことは不幸中の幸いだと思っている。



田村地方介護支援専門員協議会

新型コロナ流行の中、会員の皆様におかれましては「新しい生活様式」として利用者宅訪問の際は手の消毒やマスク着用など感染対策をしながら日々の業務を行っていることと思います。

田村地域のコロナ禍でのケアマネジメントの工夫としては、訪問の連絡を取る際に、本人・家族へマスク着用をお願いすることやモニタリングは玄関先で短時間で行い連続して訪問しない等の感染対策を行っている例があります。また、サービス担当者会議の際にオンラインのビデオ通話を利用して主治医に参加してもらった例や事業所で購入したipadを利用し、訪問リハビリのPTとビデオ通話で家屋状況を確認してもらった例もあります。また、包括支援センターへの問い合わせでは、サービス担当者会議当日にケアマネがコロナの濃厚接触者の疑いがあり、ケアマネが参加者と接触せずに担当者会議を開催することは可能かとのことで保険者に確認したところ、利用者・家族から要望があれば、感染拡大予防の観点から電話やオンラインのビデオ通話で担当者会議を開催することは可能と返答をいただいた例があります。

いずれも保険者に確認をしながら業務を行っています。



「水害支援について」のアンケート集計結果から見てきたこと 災害対策グループ 菊地正樹

令和4年2月、「水害支援について」というアンケートを当協会ホームページ上で行い、133名の方から貴重な回答を頂いたことを感謝致します。

そのアンケート集計結果から見てきたことについて、簡単にご報告致します。

「水害を経験したことがあるか?」という問いに対して、約63%の方が「ある」と回答し、過半数以上の方は、何かしらの水害に遭遇していることが分かります。

「災害当時の所属地域について」の問いに対しては、県北が35%、県南が24%、県中が19%、いわきが18%と続き、県北をはじめとする中通りが水害を受けやすい地域だと分かります。これは、中通りに阿武隈川が流れているためだと考えられ、逆に会津や相双地区は水害の少ない地域ということが分かります。

「最も印象に残っている水害の種別は?」という問いでは、半数に近い49%が台風による水害で、続いて、豪雨・ゲリラ豪雨が14%と続きます。これらを原因として、床上洪水や冠水がひき起っております。台風の影響で阿武隈川が氾濫することにより、水害が発生すると察します。

今回頂いた貴重なアンケート内容は、災害対策グループで分析した上で、今後の当協会並びに当グループの活動に活かし、ホームページ上に報告して参りたいと考えております。

第24回（令和3年度）介護支援専門員実務研修受講試験の結果について

ケアマネ試験、県内の合格率は20.4%

	受験者数	合格者数	合格率
第24回（令和3年度）	947人	193人	20.4%
第23回（令和2年度）	908人	133人	14.6%

（福島県高齢福祉課ホームページより）

新型コロナウイルスの流行により、受験に臨む環境は厳しく変化している中、県内の受験者数は前回から39人増加。

合格者数も66人増え、合格率は20%を超えました。

令和4年度の法定研修について 福島県介護支援専門員協会 研修部

福島県より受託しております介護支援専門員法定研修「専門Ⅰ研修」「専門Ⅱ研修」「主任介護支援専門員研修」「主任介護支援専門員更新研修」は新型コロナウイルス感染防止の観点から実施方法が完全オンライン化へ大きく変わっています。

令和2年度から集合研修のほかに通信による個人学習を取り入れて参りましたが、令和4年度からは集合研修を全てなくし演習につきましてもオンラインを使用して実施することとなりました。詳細につきましては当協会ホームページの法定研修ページにあります、令和4年度福島県介護支援専門員法定研修の手引きにてご確認ください。また各研修のお申し込みは手引きに記載してあります申込期間内にお問い合わせをお願いします。

今後も新型コロナウイルス感染状況等、余談を許さない状況が予想されます。研修についての最新情報は当協会ホームページのトップページ「新着情報」に掲載していますのでこまめにご確認くださいませよう重ねてお願い申し上げます。

福島県介護支援専門員協会 ホームページリニューアル

本会のホームページがリニューアルしました。
最新情報及び研修情報がより充実、ブックマークをよろしくお願いします。

<http://www.fcma.jp>



発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会長：菊地健治

事務局：郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号

TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 伊東 靖裕 本名 由美 石井むつ美 奥山 明浩 柏倉 道子

小林 悟 齋藤 真尚 佐々木香織 佐藤 一行 萩原美起子 古山ひろみ